

## 新型インフルエンザワクチン接種に関する日本ウイルス学会からの要望書

平成 21 年 11 月 2 日

日本ウイルス学会  
理事長 野本 明男

厚生労働大臣殿

謹啓

本年、4 月以降、世界中に新型インフルエンザウイルス(パンデミックウイルス H1N1 2009)が流行し、日本でも感染が拡大しています。我が国は、抗インフルエンザ薬の普及など医療体制の充実により、諸外国よりは被害ははるかに少ないものの、疫学調査によると、10月中旬において、入院患者は 3000 人近くとなり、死亡者も 35 人を超えました。新型インフルエンザによる健康被害の対策として、ワクチンが準備され、10 月 19 日より、接種が開始されました。新型インフルエンザウイルスは、多くの国民がこれまでに感染したことがないため、これまでの経験から、感染防御に有効と考えられる免疫を得るためには、2 回のワクチン接種が必要であるとされていました。しかし、健康成人における新型インフルエンザの臨床試験では、1 回のワクチン接種で感染防御に有効と考えられる免疫が賦与されることが明らかとなりました。しかしながら、過日、すでに決定された優先順位に従い、1 回目を接種の後、その効果を考慮して、2 回目を接種するか否かの判断を行うとの方針が決定されました。その場合、優先順位が基礎疾患を有する者よりも下位に位置している 10 歳未満の小児のワクチン接種が大幅に遅れる可能性が憂慮されます。入院患者の半数以上が 10 歳未満の小児であることを考慮すると、10 歳未満の小児に早急にワクチンを接種し、これらの健康被害を防ぐことが望まれます。従って、日本ウイルス学会としては、できるだけ早く、優先接種対象者全員(特に 10 歳未満の小児)にワクチン接種を行うことを強く要望いたします。

謹白